非認知能力でつなぐ大人と子ども vol. 2

「できるかも！」が、子どもの力になる

５月18日、町で行われた「非認知能力保護者セミナー」では、ボーク重子さんを講師に迎え、「子どもの“見えない力”を育てる関わり方」について実践的に学びました。

●ボーク重子（しげこ）さん

非認知能力を軸とした子育ての重要性を日本全国に発信。非認知能力育児のパイオニアとして知られる。「世界最高の子育て（ダイヤモンド社平成30年出版）」がベストセラーとなって以来、「非認知能力」の火付け役として講演会や執筆を精力的に行う。その後出版された本は7冊、アジア圏での出版は4冊。 講演会とワークショップの参加者は12,000人を超える。「人生が変わる1分間の深イイ話」「踊る！さんま御殿！！」「ノンストップ」をはじめメディアの登場は80媒体以上（令和４年１月時点）」

「非認知能力」は見えないけれど行動で見える力

セミナーの冒頭で紹介されたのは、「非認知能力＝テストでは測れないけれど、社会を生き抜くために欠かせない力」。挑戦する力、感情を調整する力、人とつながる力、自分を大切にする力。こうした力は、点数では表せませんが、実際には「子どもの表情や行動に表れている」とボークさんは語ります。

例えば、「また失敗しちゃった…」と落ち込む子に、「またチャレンジしてみようか」と声をかけるだけで、自己効力感（自分にはできると思える感覚）は育まれます。

親が変われば、子どもが変わる

セミナーでは、ボークさんが長年実践してきた“10秒でできるスキル”も紹介されました。 そのひとつが「褒め方の４ルール」。

1. 非言語（表情・声のトーン）で伝える
2. ポジティブな見方を選ぶ
3. 結果よりも努力のプロセスを褒める
4. “70％で合格”のゆるやかな基準をもつ

これらは、完璧を求めすぎず、できたこと・やろうとしたことを認めていく関わり方です。ボークさんは「まずは自分自身を褒めてみて。できないことがあっても、自分を大事にできる人こそ、子どもを大事にできる」と話されました。

会場では、自分に「今日も無事に１日終えた、えらい！」と声をかけるワークを体験し、多くの保護者が「子どもだけでなく、自分にも優しくなれそう」と笑顔で語っていました。

明日から家庭で、誰でも・どこでも・簡単に

非認知能力は、特別な場面だけで育まれるものではありません。 「家庭という日常の中で、親が楽しそうに生きていること、ワクワクしている姿こそが、最高の学びになる」とボークさんは繰り返し伝えます。

そして最後には、町で伸ばす７つの非認知能力（あきらめない力・自分を調整する力・目標・夢を持つ力・挑む力・協働する力・受け入れる力・伝える力）と連動した、全４回のセミナーのスタートであることが紹介されました。

次回のセミナーは９月14日(日)です

5

[と　き] ９月14日(日)　午前10時～11時
※午前11時～11時30分まで相談コーナーを設けます。
[ところ] 町立万葉ホール
[内　容] 子どもの自信を生む「挑戦する力」を育む

ボークさんの講演の様子や、家庭での実践に役立つ資料や次回セミナーのお知らせは、町ホームページでご覧ください。
詳しくは、こちらから▶

明日から使えるヒントが、動画と資料の両方で学べます！
「子どもの“見えない力”を伸ばしたい」と願うすべての人に、ご覧頂きたい内容です。

みんなで育てる「たいしの子」vol.24

みんなで育てる、たいしの子だからこそ、みんなで知りたい「太子町の学校教育の今」

学校でどんな授業が行われているのか？子どもたちは、どんな力を育てているのか？ 「社会に開かれた教育課程」の実現が求められる今、学校･家庭･地域で一体となって子どもたちの育ちを、みんなで支えていくことが大切です。

本紙では、そんな「太子町の教育の今」を、丁寧に紹介します。変わりつつある授業、非認知能力を育む工夫、子どもを主語にした関わりなど、学校で起きていることを、ぜひ一緒に共有しませんか？

授業で育てる子どものチカラ＝非認知能力を育てる学びのカタチ＝

令和７年度から、町の幼小中一貫教育は第２期に入りました。大きなテーマは、「授業でも伸ばす非認知能力」です。

「自分と向き合う力」「自分を高める力」「他者とつながる力」など、目には見えにくいけれども、子どもたちの可能性を広げる基盤となる力を、授業の中で育む取り組みが進んでいます。

これまでは「知識の量を重視する」傾向がありました。しかし、これからの時代は“今ないものが次々と生まれ、目まぐるしい変化が起きる”時代です。その中で大切になるのは、既存の知識に加え、知識を活用することや、新たな知識を自ら学び取ること、それらを活かして協力して取り組むことなどです。

授業中、先生の説明を黙って聞いてノートに写すスタイルだけではなく、**授業そのものの中でこれらの力を伸ばしていくことが、ますます重要になってきています。**

one point!
社会の急激な変化に対応するために

学習指導要領では、こうした力がなぜ今必要なのかを次のように説明しています。

「今の子どもたちやこれから誕生する子どもたちが、成人して社会で活躍する頃には…予測が困難な時代となっている…」

「このような時代にあって、学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくこと…新たな価値につなげていくことが求められている」(学習指導要領解説【総則編】より)

授業づくりのアップデート町の取り組み

町では、令和７年度から全ての学校で研修を充実し、これまで、学校園で大切にしてきた非認知能力をキーワードに授業づくりのアップデートを進めています。子どもの「自分で考える」「仲間と話し合う」「選ぶ・決める」といった場面が、日々の教室のあちこちで見られるようになってきています。こうしたものは、学校教育が長年その育成をめざしてきた「生きる力」であることを改めて捉えなおすものです。新しいものに全面的に入れ替えることではありません。

学校の授業は今、こんなふうにアップデートしています

☑ 一方的に教えるのではなく、子どもが自ら問いを立てる授業
☑ 自ら考え、対話し、共有し、気づき、そして学びを振り返る構成
☑ “思いやり”“挑戦”“つながり”など、非認知能力を明確に位置づけ、授業で意識して取り組むスタイル

子どもたちの「できた！」の背景にある、“内なる力≒非認知能力”の育ちにぜひ注目してみてください。

９月12日（金）太子町教育フォーラムを行います！

町立学校園での取り組みや、授業づくりについて一緒に考える機会です。

皆さんのご参加を心よりお待ちしています！

[と　き] ９月12日(金)　午後３時～
[ところ] 町立中学校
[内　容] ①太子町立学校園の取り組み発表
②授業で伸ばす非認知能力について
[講　師] 中山　芳一　氏

申込みなど、詳しくは右記二次元コードからご確認ください
詳しくは、こちらから▶
※事前申込制。

◆問合せ　教育総務課　☎98-5533
生涯学習課　☎98-5534